

私にとって農業は、家族の笑顔と未来を育てる
自分の生き方そのものです。



農業に懸ける情熱



1 就農したきっかけ

両親が農業を営んでいた影響もあり、幼い頃から漠然と「将来は農業を継ぐのだろう」と思っていました。高校卒業後は、深川市にある拓殖大学北海道短期大学へ進学し、農業について学びました。周囲の友人たちも農家を志す人が多く、卒業後は自然な流れで農業の道へ進みました。幼少期から、両親が楽しそうに働く姿を間近で見て育ったこともあり、農業を継ぐことに対して特に抵抗はありませんでした。今年で農業に従事して10年目を迎えます。

2 就農当時のこと

就農当時は、慣れない作業や機械の操作、早朝の作業にも苦労しました。そんな中、JA職員に声をかけてもらい、未だ来る米ステーションで臨時職員として働くことになりました。そこで多くのJA職員や組合員と知り合い、気軽に話せる関係を築けたことは大きな支えとなりました。

就農する前に思い描いていた以上に困難なことは多かったのですが、こうした人とのつながりがあったおかげで、挫けることなく前向きに農業に取り組むことができました。

3 仕事をするうえで大切にしていること



毎日の終わりに、欠かさず作業日誌をつけるようにしています。これは就農当初から続いている習慣で、その日に使用した農薬の種類や作業内容などを、できるだけ詳しく記録しています。こうした記録は翌年の作業計画を立てる際に非常に役立ち、効率的なスケジュール管理にもつながっています。

また、農家は体力が求められる仕事でもあるため、自分自身はもちろん、家族の健康にも常に気を配っています。長時間の作業で体に負担がかかることも多く、疲労が蓄積しやすいのも現実です。バランスの取れた食事と十分な睡眠を心掛けることで、心身ともに強く、長く現役でいられる農家を目指しています。

4 青年部活動について

地元の先輩から誘ってもらったことをきっかけに、就農と同時に加入しました。青年部活動を通して、地元の農家だけでなく、他の地区の農家と交流することができ、気軽に何でも相談できる仲間を作ることができました。本部活動に携わるようになってからは、より広い地域の盟友と交流することができました。

現在は栗沢支部の副支部長を務め、運営側として活動を行っています。盟友がより楽しく活動することができるよう、楽しい活動を企画していきたいと考えています。今後も、積極的に青年部活動に取り組んでいきたいです。



青年部栗沢支部の視察研修

人物 memo

岩見沢市栗沢町岐阜
辻 貴将 さん(30歳)

父の幸秀さん、母の縁さんの家族3人で約24haの農地に小麦や大豆、花きを栽培。高校卒業後は深川市にある拓殖大学北海道短期大学へ進学。周囲の友人たちも農家を志す人が多く、卒業後は自然な流れで農業の道へ進みました。現在は青年部栗沢支部の副支部長も務め、充実した農業生活を送っています。